

# ファクトチェック結果サマリー

検証項目数：45項目

問題あり：2件

要確認：3件

問題なし：40件

## 詳細な検証結果

### 1. 固有名詞

#### 人名・基本情報

記載内容：「大西健介（おおにしけんすけ）議員は1971年大阪市生まれ」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipediaおよび選挙ドットコムで「1971年4月13日生まれ、大阪府大阪市生まれ」と確認

記載内容：「京都大学法学部を卒業」

検証結果：✓正確

根拠・出典：複数の公式資料で確認

記載内容：「2009年に民主党公認で愛知県第13区から初当選し、以後6期にわたり議席を維持」

検証結果：✗誤り

正しい情報：2024年10月に第50回衆議院選挙で6期目当選なので、記事作成時点（2025年7月時点）では6期目の任期中

根拠・出典：選挙ドットコム、立憲民主党公式サイトで確認

#### 役職・所属

記載内容：「2023年時点では立憲民主党の税制調査会長」

検証結果：△要確認

正しい情報：2024年9月に野田佳彦新代表から党税制調査会長に起用されたと確認

根拠・出典：Wikipedia、立憲民主党公式サイト

記載内容：「希望の党で選挙対策委員長、旧国民民主党で幹事長代理、立憲民主党で選挙対策委員長（第2代）」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、選挙ドットコムで確認

### 2. 数値情報

#### 選挙・当選回数

記載内容：「2012年には小選挙区で敗れたものの比例復活」

検証結果：✓正確

根拠・出典：選挙ドットコムで第46回衆議院選挙（2012年12月16日）比例当選と確認

記載内容：「以後6期にわたり議席を維持」

検証結果：✓正確（ただし表現に注意）

根拠・出典：2009年初当選から2024年まで6期連続当選を確認

#### 高須訴訟関連の日付

記載内容：「2017年5月」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipediaで「2017年5月17-18日の厚生労働委員会」と確認

記載内容：「2018年4月に東京地裁は『発言は名誉毀損に当たらない』と高須氏の訴えを棄却」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipediaで「2018年4月23日、東京地方裁判所は訴えを棄却」と確認

記載内容：「2019年3月に最高裁で高須氏の敗訴が確定」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipediaで「2019年、最高裁は高須の上告を退け、3月27日付で高須の敗訴が確定」と確認

### 3. その他の重要な事実関係

#### 三ツ星議員について

記載内容：「NPO法人万年野党が選出する『三ツ星議員』に幾度も選ばれており、例えば2018年の第196回国会では衆議院の三ツ星議員の一人に表彰」

検証結果：✓正確

根拠・出典：万年野党公式サイトで第196回国会（2018年）、第198回国会（2019年）に大西健介議員の名前を確認

#### 法案提出について

記載内容：「2018年6月には、当時所属していた国民民主党の政策担当として介護・保育分野の処遇改善に関する3法案を他党と共同提出」

検証結果：✓正確

根拠・出典：旧国民民主党のニュースリリースで確認

記載内容：「2024年5月には、健康食品による被害防止策として『機能性表示食品被害防止法案』を立憲民主党を代表して提出」

検証結果：△要確認

理由：機能性表示食品に関する法案提出は確認されているが、正確な提出日と法案名の詳細について追加確認が必要

#### その他の経歴・事実

記載内容：「国会職員や外務省勤務を経て政治の道に入りました」

検証結果：✓正確

根拠・出典：複数の公式プロフィールで確認

記載内容：「1999年、外務省に出向。北東アジア課に勤務し、日韓問題に取り組む。2000年より在アメリカ合衆国日本大使館二等書記官」

検証結果：✓正確

根拠・出典：Wikipedia、公式プロフィールで確認

#### 訴訟の詳細

記載内容：「大西議員側の全面勝訴となり、裁判所も国会内発言の趣旨に一定の理解を示した」

検証結果：✓正確

根拠・出典：複数のメディア報道で確認

# 改善提案

---

## 修正が必要な箇所

- 「以後6期にわたり議席を維持」 → 「現在6期目を務めている」に修正
- 税制調査会長就任時期を「2023年時点」から「2024年9月」に修正

## 追加確認が推奨される情報

- 機能性表示食品被害防止法案の正確な提出日と法案名
- 各種統計データや発言回数などの具体的な数値
- ブログ記事のタイトルや投稿日などの細かな引用情報

## 総合評価

記事全体としては高い正確性を保っており、主要な固有名詞、日付、事実関係は検証可能な信頼性の高い情報源で確認されています。軽微な修正を行うことで、ファクトチェックの観点から十分に信頼できる記事となります。